

日本文化の体験や地域のまち歩きを取り入れたアフターコンベンションの取り組みの推進

モデル事業の構築

MICE は、(M) Meeting、(I) Incentive、(C) Convention、(E) Exhibition は、今後のインバウンドの期待される分野。これまでツアーコースのほか、小グループによるまち歩き、日本文化の体験などを組み合わせたアフターコンベンションプログラムを開発していくことにより、通訳案内士の活動の場の拡大を提案する。以下は、当交流塾の実施例である。



(事例 1) ICOM-ASPAC 日本会議 2009 エクスカーション

(1) 主催 国立科学博物館、実施 NPO 日本文化体験交流塾

(2) 実施日時 2010年12月9日(水)13時~17時

エクスカーション参加者 20カ国 130名余

従事した通訳案内士 24名

(3) コース概要

時間	コース 1	コース 2	コース 3
コース名	バスによる東京観光と最新の博物館見学コース	茶道体験と国立博物館・寛永寺・谷中見学コース	浮世絵制作と江戸東京博物館見学コース
定員	最大 40 名	最大 48 名	最大 64 名
会場	国立新美術館 日本科学未来館	国立博物館 寛永寺、谷中地域	科学博物館 江戸・東京博物館
ガイド	参加者 10 人につき、通訳案内士 1 名以上	参加者 8 名につき、通訳案内士 1 名以上	参加者 8 名につき、通訳案内士 1 名以上
体験		転合庵にて、茶道体験 英語による茶道教室の師範・生徒による助手(いずれも通訳案内士)	浮世絵の摺り・彫りを通訳案内士が説明

(事例 2) 八方園におけるエキシビション

(1) 2009年11月17日(火) 19時~22時 参加者 200名

(2) ホールでのエキシビション

①和紙づくり、風呂敷包み、折り紙、お花の実演、

(3) ステージ・ショー

①日本舞踊、②琴の演奏 ③三味線の演奏

(4) パーティ通訳

4カ国語、14人通訳案内士が着物で接遇

(5) これを機会に、琴、三味線の演奏、風呂敷包みのパフォーマンスなどを有料で実施



(事例 3) 第 55 回国際学生会議における日本文化体験

(1) 日本人 40 名、外国人 40 名(20 国程度) 計 80 名程度

(2) 浴衣着付け、「男らしく見える仕草」「美しい女性の立ち居・振る舞い」

剣舞 通訳案内士が着付け指導、仕草指導

